



## 2015年度 LSO 利用状況

**年** 度末ということで、2015年度のLSOの利用状況をお伝えします。今年度は成績評価や移行点算出基準単位の変更がありました。LSOでは支援内容の多様化に力を入れ、特に学修支援において、以下の新規企画を行いました。

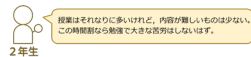
### (1) 時間割シミュレーション展示

年2回(9月と2月)に総合教育部で行われる学部・学科等紹介に合わせ、LSOでは進路相談会を開催しています。今年度はアカデミック・アドバイザーによる進路相談に加え「時間割シミュレーション展示」(ピアサポート室との連携企画)というものを行いました。これは各学部に進級した先輩学生の実際の時間割をポスターにしたもので、志望学部に移行した際の授業内容や忙しさがイメージできるものになっています。2回の開催でのべ318名の来室がありました。

月	2年生 2学期			
	月	火	水	木
1限	教育方法論			主選別科目
2限	哲学演習	倫理学	国語学概論	芸術学概論
3限	倫理学概論	倫理学演習	人文社会	科学の基礎
4限	考古学	基礎心理学		宗教学
5限	教職入門	言語学		総合科目

### (2) 物理のコツ

物理学に関して学習サポート(個別学習相談)の他にこれまで講義形式での支援を行ってきましたが、今年度からは資料配布形式に切り替えました。「物理のコツ」は大学物理の基礎を要点ごとにA4表裏1,2枚程にまとめたものです。学習サポートでは常に物理学の質問が多い傾向にあり、移行点算出基準単位変更の影響でさらにその傾向が強まると予想されたことを受け企画しました。一年間で全20回分を作成し、オフィス前のパンフレットスタンドから累計4962部を配布しました。



写真は多少なりとも写れど、内容が正しいものは少ない。この時間割なら程度で大きな差は少ないはず。

### (3) 英語ライティングクリニック

これは英語ネイティブのTAによる英文添削で、2年次以上の学部生、大学院生、教職員が利用できます(一年生の場合は成績に関係しない範囲でのみ利用可能)。論文のアブストラクトやエッセイ、スピーチなどに関する内容で、15名の利用がありました。

既存の支援も強化されました。各学部の研究キーワードをまとめたアカデミック・マップ2016のWeb版では各キーワードに関連する研究室名の情報が加わりました(一部のキーワードを除く)。これによりキーワードから直接、興味の近い研究室が分かるようになりました。スタディ・スキルセミナー(一年生向けにレポートの書き方などをレクチャー)やアカデミックスキルセミナー(学部生・大学院生向けにプレゼンのコツなどをレクチャー)の内容も強化され、のべ参加人数は昨年度の2倍を超えました。

上記実績を含む2015年度ラーニングサポート室の利用状況を表1に示します。(浅賀圭祐)

表1 2015年度利用状況

	延べ利用者数(2014年実績)
進路選択・履修相談	864人*(745人)
進路相談会	318人(41人)
学習サポート	2959人*(3495人)
スタディ・スキルセミナー	414人(195人)
アカデミックスキルセミナー	306人(123人)
物理のコツ	4962部配布(新規)
英語コミュニケーション	118人(198人)
英語ライティングクリニック	15人(新規)

※2016年3月14日時点

## スタッフの心象 第9回「自分を支えるもの」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・学修・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

現在、平成27年度移行手続きの真っ只中にあり、本文執筆時点(3月8日)で、総合入試で入学した1年生のおよそ8割の移行先学部・学科等が決定しました。正式な資料は後日公開されることとなりますが、医療系学部や農学部の最低移行点が比較的高くなっており、これらの学部・学科等の人気の高さを示すものと言えるでしょう。

生物学の知識を使う学部・学科等が人気となるのは毎年の傾向ですが、これらの学部・学科等における生物学に対するアプローチやメソッドは大きく異なります。極端に言えば、生物学の知見を道具として扱う分野と、生命現象の本質を探る分野とでは、その根っこから別物とさえ思えるくらいです。はたして医学を志す学生が、理学部生物科学科でショウジョウバエを観察してメンデルの遺伝の法則を再現できたところで満足できるでしょうか。農場実習を始めとするフィールドワークに関心のある学生

が、多様な薬剤の効果効用を覚えることに興味を持てるでしょうか。

もし生物学が「好き」あるいは「得意」であれば、進路選択の幅が広がるのは間違いないでしょう。その結果、生物学を得意とする総合系系の学生の中には「第1志望…薬学部薬学科、第2志望…農学部生物機能化学科、第3志望…理学部生物科学科(生物学)」のように、医療資格系、応用系、基礎系が混ざったような志望を行う学生が見られます。

おそらく、自分の興味の他に資格や就職、移行難易度(その他、親の願い等もあるかも知れません)も考え合わせての志望なのでしょう。もちろん、このような志望も間違いではありません。しかし、彼・彼女が近い将来に壁にぶつかったとき、自分の中の何を武器として壁を壊していけるのか、一抹の不安を感じてしまいます。(多田泰紘)



## チューター研修会 報告

東北大学学習支援センターとの合同研修会の様子をお伝えします。

2016年3月7,8日に東北大学にてLSOと東北大学学習支援センター(CLS)による合同研修会を行いました。この研修会は、学生・スタッフ間での交流とディスカッションを通し情報交換を行うためのもので、今回で3回目になります。LSOからは大学院生チューター5名、CLSからは学部3,4年生のSLA(Student Learning Adviser※後述)6名が参加しました。個別質問対応による学習支援のあり方について議論したり、実際の対応スキル向上のためのセミナー開催など、さまざまな活動を行いました。



互いの組織の類似点・相違点について話し合う参加者



CLSの活動を紹介するSLAの皆さん

学生相手に個別対応で行う学習サポートでは、専門的な内容理解のほか、やり取りを円滑に進めるコミュニケーション能力や分かり易く適切に内容を提示する説明能力など総合的な能力が要求されます。

今回の研修会では、自分の専門分野や学習支援への意識をプレゼンすることで必要事項を的確に説明する能力を養う訓練や、コミュニケーション能力を高めるための実践的な「傾聴スキル」の学び、普遍性・個性といった観点から「良いサポートとは何か」を探るディスカッションなどを行いました。

LSOの学習サポート利用の背景の一つに、総合入試制度の下で志望学部に移行するために良い成績を取りたいという学生が多いということがあります。そのような状況では、とすれば学生は単純に問題の答を知るため、課題をこなすために学習サポートを利用するということに成りかねません。LSOではこの点に普段から留意し、教養としての学問の理解や授業の補完を目的とし、学生の自主的な学びを支援する、真に学生のためになる対応を心掛けています。そのためには、他組織のあり方も学びながら、常に自らの対応を見直し続けることも必要です。そのような意味も含め、今回の研修会はLSOにおける今後の支援の向上に繋がる機会となったのではないかと思います。

(清水将英)

### 東北大学学習支援センター(CLS)とは

教育学を専門とするスタッフ2名の元に50名以上のSLA(Student Learning Adviser)が組織され、個別学習相談を主とする学習支援を行っています。SLAはTA制度を発展させたもので、学部3年生から就くことができます。教える側・教えられる側の学生が共に学び育つ”ともそだち”をコンセプトに、多くの学生の主体的な学びを支援しています。



傾聴スキルを学ぶSLAとチューター

## 退職のご挨拶

ラーニングサポート室の分析担当として、4月から1年間、データ分析などを担当してまいりました。理学部出身のスタッフと一緒に仕事する機会にめぐまれ、ものごとの捉え方や視点の違いに触れ、大変勉強になりました。

学生の皆様、ラーニングサポート室では学生支援について日々新しい試みに取り組んでいます。「入室じづらい」とのお声も聞きすることもございますが、E210・E211に用意されている学生支援のための資源を積極的にご活用ください。

LSOスタッフ 田中 藍子

## 編集後記

アカデミック・サポートセンターからラーニングサポート室に名称が変わり、一年が過ぎようとしています。我が家の同居人?(2歳のギリシャリクガメ)も体重が180gから1.2kgに増加しました。若い命の成長は早いものです。この時期、北大一年生の皆さんは総合教育部から各学部へと移っていきます。実感はないかもしれませんが、我々から見ると、皆ははっきりと変化が見られるものです。より一層の成長を期待しています。(多田泰紘)

## お知らせ

本紙第3号に掲載されたCLOSE UP 教養 第3回「線形代数学」は一部不適切な表現を含んでいたため、掲載を取り消しました。ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

### ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp  
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/



次号は6月発行予定です